

小国町玉川地域（玉川小中学校閉校後利活用検討委員会） 概要

1 地区の概要

- 小国町は山形県の南西部、新潟県との県境に位置し人口は約9,200人。高齢化率は32.1%(H17)。
- 東京からJR小国駅までは、約3時間半。
- 対象である玉川地域は、小国町の中心地であるJR小国駅に南西に位置し、車で30分程度。
- 玉川地域は6つの集落からなり、人口は約290人。
- 冬季は2～3m程度の積雪のある豪雪地帯。
- 玉川地域南の小玉川地域は、飯豊山の登山口として観光基地となっている。



2 現状と課題

- 小国町は大規模工場の立地により、工場勤めの町民が多く、第2次産業従事者は5割である。第1次産業の従事者は400人程度であるが、兼業化が進んでおり農林業に強みを持つ町ではない。
- 玉川地区は高齢化も進み、耕作放棄地、管理されない森林等の増加、祭りなどの地域コミュニティの維持が懸念されている。交通不便な地域であるため、人口が流出し、減少傾向にある。
- 学校が地域の中心であり、地域の行事は学校と連携して行われている。学校が廃校となることで、地域の活動が停滞してしまうことが懸念されている。
- 玉川地域南方の小玉川地域は、飯豊山をはじめとする観光資源が豊富な地域であり、年間40万人程度の観光客が訪れている。しかし、玉川地域には立ち寄る場所もなく通過されてしまう。
- 玉川地域内ではワラビ園があり春のシーズンには観光客が訪れる。
- 玉川地域内には山菜、きのこ栽培、イワナ養殖を生業とする人がいるなど、自然資源は豊富。

3 取り組みの現状

- 玉川地域振興協議会(自治会)が中心となり、これまで地域づくり活動を展開。
- 平成18～20年の3年間、まちづくりコーディネーターの支援を受け地域づくりを展開。越後街道の敷石復元、食の文化掘り起こしなどのイベントを開催。越後街道の敷石掘りは継続的にイベント実施。
- 本ケーススタディの開始に際して、地区住民からなる「玉川小中学校閉校後利活用検討委員会」が組織された。



萱野峠

4 今年度の検討手順

検討会議	検討内容 ※第1回は活動団体ヒアリング(2009/9/25実施)
第2回検討会議 2009.11.5	■住民ワークショップを開催 ■「困っていること」「不安に思っていること」等、地区の課題を共有
第3回検討会議 2009.12.9	■住民ワークショップを開催 ■「何を指すか」「地域における夢・希望」を議論。地区資源の掘り起こしと活用方法の検討
第4回検討会議 2010.1.13	■地域活性化指針の取りまとめ ■「小中学校を活用して何ができるか」について、具体的に検討。活用の方向性を共有。

5 将来像実現に向けて活動主体が求める情報

- 当地区に参考となる、廃校活用事例の提供
- 地区住民の集まりにおいて、目標を共有し実行に至るまでのプロセス、手法論

【アドバイザー】

活動団体における目標の共有や、取り組み内容の決定を効果的に行うために、住民ワークショップに多数の経験を有するアドバイザーを起用

6 拠点施設の状況と活用可能性

◆廃校予定の小中学校校舎



- 平成21年3月に廃校予定(現在は使用)
- 昭和60年に建築
- 寄宿舎は、調理場、台所、4人部屋5部屋、トイレ風呂を完備

課題として



- 学校を宿泊、調理場として活用するためには、法令に準ずる対応が必要
- 寄宿舎を宿泊として活用する場合には、内装改修が必要

◆寄宿舎



7 地域活性化計画の概要

STEP.2-② 資源を活用した体験の場を提供 集約による雇用の場を創出

- 提案された取り組み事項から、最初に取り組むべき事項、できることの絞り込み
- 決定された取り組みの試験的実行
- プロモーション方法の検討

STEP.2-① 地域に住む人が安心な暮らしができるよう、憩いの場の創出

- 憩いの場の機能を検討
- 地区住民の役割を確認
- 試験運用と課題の洗い出し

STEP.1 集客と生活の安心を目標に取り組み事項の絞り込み

- 地区のたまり場・憩いの場検討
- 玉川地域の資源活用方法の検討
- 小中学校(廃校)の具体的活用の検討

●当面の課題●

- 目標や活動内容の例示は共有できたが、今後は“何を”“誰が”“どのように”について、深掘りして検討することが必要。
- 議論だけではなく、実際に行動し、取り組み事項の課題を精査することが重要。